

こども防災手帳（高学年用）

副読本

この本は、尾張旭市が市内の市立小学校に通う高学年のお子さんに配布している「こども防災手帳（４・５・６年生用）」の副読本です。
こども防災手帳をより活用していただくため、学校の先生や保護者の方向けに解説しています。
令和３年４月発行「尾張旭市防災ガイドブック」と合わせ、ぜひご活用ください。

目次	
1 災害に備える	P 1・2
2 地しんの時はどうする？	P 3～6
3 台風（風水害）の時はどうする？	P 7・8
4 その他の災害のことを考えよう！	P 9
5 ひ難所ってどんなところ？	P 9・10
6 災害用伝言ダイヤルの使い方	P 10
7 応急手当	P 11
8 まとめ	P 11

令和３年１１月

尾張旭市

1 災害に備える

ねらい

- ☆ 家族間で災害について話し合いの機会を持つ。
- ☆ 災害が起きたときの行動について『決めごと』を作る。

解説

① 集合場所

- 優先順位を付けて、複数の待ち合わせ場所を決めましょう。
- 待ち合わせ時間を1日2回程度決めると良いでしょう。
例：午前11時、午後3時等

② 家の近所のひ難場所

避難場所（指定緊急避難場所）は、災害発生時、命を守るため短時間避難する場所を指します。

尾張旭市では、災害の種類によって名称も場所も異なります。

■ 地震

一時避難場所：市内各都市公園、一部の集会所、ちびっこ広場等

■ 風水害

地域避難所：中央公民館、地区公民館（三郷公民館を除く）、東部市民センター

※ 一定期間集団で生活する避難所は指定避難所とされ、尾張旭市では各小中学校を指定しています。（詳細は、令和3年4月発行の尾張旭市防災ガイドブックを確認）

※ 命を守るために避難する場所であるため、必ずしも市が指定した場所に避難しなければならないわけではありません。

③ 連絡方法

- 災害時は、携帯電話、固定電話に通信規制がかかる場合があります。
- 公衆電話は通信規制の対象外として優先的に取り扱われるため、日頃から公衆電話の位置をお子さんと確認し、使い方を習得しておきましょう。


④ 自分の役割

災害時は、自分の命をまず最優先で守ります。その上で、できることがあれば役割を決めておきましょう。例：家のおじいちゃんを連れて避難する、等

1. 災害に備える


① 災害が起きた時のために、お家の人と話し合っておきましょう。

《集合場所》



①

《家の近所のひ難場所》




地しんのときは

風水害のときは

②

《連絡方法》



だれに？

電話番号は？

③

《自分の役割》


災害が起きた時自分ができることは何か、お家の人と話し合ってお書き出してみましょう！

④

119番通報のポイント

焦らず、落ち着いて答えるようにしましょう！！

火事が救急か	「火事です」「救急です」
場所	住所や目標になる建物を伝える
火災・事故の状況	何がどうしたとはっきり伝える
通報者の連絡先	名前と住所と電話番号



◎ 119番通報のポイント

慌てず通報できるように心構えをしておきましょう。

子どもはもちろん、大人も一人で無理に救助したり、消火したりせず、人を呼んで落ち着いて対処しましょう。

◎ 非常持ち出し品を用意するポイント

■ 非常持ち出し品は、避難の際に両手を空けるため、リュックサック等背負える袋にまとめましょう。その際、背負える重さにすることに留意します。

■ すぐに持ち出せるよう、家の構造等を考えて置き場所を決めましょう。

◎ 非常持ち出し品の内容

■ ここに掲載されているイラスト、リストの物品は一例であり、必要なもの全てではありません。

■ 非常持ち出し品は、避難後にすぐに必要になるものは何かを考えて用意しましょう。人から借りられないものについては、特に留意して用意します。

例：メガネ、歯ブラシ、薬等

■ 備蓄品は、3日間分（できれば1週間分）を用意します。備蓄品は、すぐに持ち出して使うものではないため、非常持ち出し品袋とは分けて用意をしましょう。

■ 飲料水や食品等は、ローリングストック法（※）を活用して備蓄しましょう。

■ 食料品以外についても、使用期限等に留意します。

■ 生理用品等の衛生用品も、個人にあったものを用意しておくくと便利です。

■ 必要なものは各家庭や季節によって変わってきますので、定期的に点検し、家族で話し合っ準備することが大切です。

ローリングストック法

あらかじめ、少し多めに食糧等を買っておき、日常生活で消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定の備蓄を保つ方法です。

② ひ難する時に必要な「非常持ち出し品」と家で生活するために必要な「備ちく品」を用意しましょう。

家のどこに置くかお家の人と話し合しましょう！
話し合った結果、どこに置くことにしましたか？



③ 非常持ち出し品ってどんなもの？



- ◆他の人に借りられないものを優先に準備
⇒メガネ、歯ブラシ等
- ◆定期的なチェック
⇒賞味期限や使用期限を確認
- ◆非常持ち出し品は、両手が自由になるように、リュック等につめて用意しましょう。
- ◆非常持ち出し品と備ちく品はわけておきましょう。

非常持ち出し品と備ちく品は準備できているかな？

非常持ち出し品	チェック ☑	備ちく品	チェック ☑
食べ物（すぐに食べられるもの）		食料品	
飲料水		水	
衣類（下着や着替え）		簡易トイレ	
タオル		ウェットティッシュ	
かい中電灯		洗面用具	
医薬品（薬やばんそうこう）		工具（はさみやスコップ）	
雨具（傘や雨ガッパ）		給水用ポリタンク	
貴重品		燃料（卓上コンロやガスボンベ）	
マスク			

2

3 地しんの時はどうする？

ねらい

- ☆ 地震が起きたとき、身を守るための動作を身につける。
- ☆ 登下校中、外遊び中に地震が起きたとき、危険な場所等を理解する。

解説

◎ 『お・い・た』

地震が発生したら、物が落ちてこない場所、移動してこない場所、倒れてこない場所に逃げます。

お子さんが学校にいる場合は、先生の指示に従って行動します。

◎ シェイクアウトのポーズ

シェイクアウト訓練を行うことで、地震の際の安全確保行動である3つの動作「①姿勢を低くして、②頭を守り、③動かない」を身に着けます。②の頭を守る際には、机の下にもぐるほか、クッションやカバン等を使用することも有効です。

揺れがおさまったら「お・は・し・も（押さない・走らない・喋らない・戻らない）」に気をつけて、大人の指示に従って避難します。

◎ 危険箇所例（登下校中）

『お・い・た』を意識して危ない場所を知っておくことが重要です。

- ① 自動販売機
固定されていない自動販売機は転倒するおそれがあります。
- ② ビルの窓ガラス、外壁
窓ガラスの飛散、外壁の剥落等でケガをするおそれがあります。
- ③ 切れた電線
切れた電線に近寄ると、感電するおそれがあります。
- ④ ブロック塀
平成30年の大阪府北部地震で、小学生のお子さんが、ブロック塀の倒壊によって下敷きになり、亡くなられています。

2. 地しんの時はどうする？

◆地しんが起きてしまったら・・・

おちてくるもの
いどうしてくるもの } からはなれて
たおれてくるもの }
⇒シェイクアウトのポーズをとる！



⇒ 'ゆれ'がおさまったら、おはしもに気をつけて、にげる



- ① 姿勢を低くする
- ② 手で頭を守る
- ③ 体を小さくしてじっとする

お さない	は しらない
し ゃべらない	も どらない

① 学校の帰り道で地しんが起きたらどうする？



上の絵を見て、考えよう！

◆普段からお家は大丈夫？

家具転倒防止器具を使って、普段から家具を固定するようにしましょう。



お家の人と話し合い、家具にあった器具を使いましょう。家具が固定されていないと、倒れてきたり、中の物が飛び出してきたりします。

3

⑤ 瓦

外壁と同様、瓦も剥落して落ちてくるおそれがあります。

※ その他通学路で起こり得る危険について、ハザードマップを見ながらお子さんと考えてみることも大切です。

◎ 学校から帰るときに地震が起きたときの行動例

学校からの帰り道で地震が起きたときにどのような行動を取るかを確認します。

手帳に記載している行動は一例であり、各家庭によって、取るべき行動も変わってきます。

まず自分の命を守るが一番大切ですが、その上で、低学年のお子さんや、一人で避難できない人に手を貸すことができる場合は、一緒に避難をします。

重要なのは『お・い・た』を意識し、周りの大人に助けを求めることです。

また、お子さん自身が、助けを求めた大人に通っている小学校や名前をちゃんと伝えられることも大切です。

② 一人で帰るとき、地しんが起きたらどうする？

～自分を守る～
 ◆ランドセルで頭を守る
 ◆「お・い・た」に気を付けて、安全な場所に避難する

～困った人を助けよう～
 ◆上級生は下級生の避難を助けてあげよう
 ◆一人で避難できない人がいたら、手を貸してあげよう

～大人の人に助けを求める～
 ◆大人の方は地しんがきたら、どうすればいいか、教えてください。すぐに助けを求めましょう

～大人の人に助けてもらうために～
 ◆名前をいう
 『私の名前は〇〇です。』
 『〇〇小学校の〇年生です。』
 ◆どうしてほしいか
 『助けてください！』

大人の人に助けてもらい無事に待ち合わせ場所に着きました。

どうしたらいいのかわからない時は・・・
 『周りに助けをもとめる。』『危険な場所に行かない。』

4

体験談（下級生を助ける上級生）東日本大震災（平成23年3月）

6年の僕たちが1年生を誘導～義足の友達はおんぶして～

（釜石市 震災当時小学6年 男子）

友達の家でゲームをして遊んでいる時に地震が起きました。ぼくらがいたのは3階の部屋でしたが、2階に下りてから、2階で遊んでいた友達の弟（小学校1年生）たちに「こっちへ来い！」と言って、本棚とか倒れてくるものがないところに集まって、揺れがおさまるのを待ちました。みんなで15人ぐらいいいたと思います。

避難をしようとする時に、1年生の子たちは避難場所とかが分かっていなかったのので、6年生のぼくたちが1年生たちを誘導するみたいな感じで、避難場所の小学校まで連れて行きました。

それから、友達の中に義足の友達がいて、あまり早く走れなくて遅れてしまうので、仲間でその子をおんぶして逃げました。

1年生たちは、おびえていたというか、しゃべれないというか、意外に静かだったのを覚えています。

（内閣府防災担当「一日前プロジェクト」より）

◎ 危険箇所例（家にいるとき）

① コンロ

湯や油が火にかけられている場合、こぼれかかってやけどをするおそれがあります。

② 冷蔵庫

倒れてきて下敷きになるおそれがあります。

③ 窓ガラス

窓ガラスが飛散し、ケガをするおそれがあります。

また、床に散らばったガラスの破片を踏んでケガをするおそれがあります。

④ ひしゃげたドア

地震の揺れによってドアが歪み、開かなくなるおそれがあります。

※ 地震の際に危険になる場所は、この手帳に掲載している場所に限りませんので、ハザードマップを見ながら、家中のどこが危険になるかをお子さんと一緒に考えておくことが大切です。

③ 家にいる時に地しんが起きたらどうする？
どこが危険でしょうか？下の絵を見て、考えてみましょう。

《料理を作っている時》

- ・無理に火を消さない
- ・ゆれがおさまるまで待つ
- ・ゆれがおさまったら火を消す

《勉強している時》

- ・あわてて外に出ない
- ・机の下にもぐるなどして、頭を守る

《お風呂に入っている時》

- ・ゆわかしきのスイッチを切る
- ・割れた鏡やガラスに注意
- ・服を着て、避難の準備

《寝ている時》

- ・布団やベッドの下に隠れる
- ・枕で頭を守る

5 室内にいるときは、出口を確保することが大切です。ドアや窓を開けて、出口を作っておきましょう。

◎ 危険箇所への対処

① コンロ等の火元

コンロからは離れ、安全な場所まで移動しましょう。このとき、火を無理に消さないようにします。揺れが収まるまで待ち、収まったら火を消しましょう。

② 冷蔵庫等の家具

家具の転倒防止措置をしておきましょう。家具転倒防止器具は、ホームセンター等で購入できますので、合ったものを選んで取り付けます。

③ 窓ガラス

窓ガラスには、あらかじめ飛散防止フィルムを貼っておくと飛び散りを防ぐことができます。また、裸足で歩くことがないように、スリッパ等をすぐ履ける位置に用意しておくことも大切です。

④ ドア

ドアや窓は開けて置き、出口を作っておきましょう。

◎ 危険箇所例（出かけているとき）

- ① 火災の発生
- ② 電車の脱線
- ③ ビルの外壁剥落
- ④ 道路の陥没
- ⑤ 橋の破損、崩落
- ⑥ 建物の倒壊

※ 上記以外にも、外出時に地震が起きると様々な危険が予測されます。

慌てるとかえって危険ですので、落ち着いて、周りの大人の指示に従って行動するようお子さんが理解することが大切です。

◎ 様々な場面での地震への対処

■ バス・電車内

つり革や手すりにつかまって、転倒しないようにしましょう。

乗務員の指示に従って行動・避難します。

■ 商業施設内

窓、ガラスケース、棚等から離れるほか、鞆や買い物かご等で頭を守ります。無理に外に出ないようにしましょう。

また、施設の従業員等の指示に従って行動・避難します。

■ 海や川の近く

津波や高潮が発生するおそれがあります。すぐにそこから離れた高台へ避難しましょう。

津波が到達する速度はとても速いため、すぐに避難することが大切です。

※ バスや電車内、商業施設内では放送で避難指示がある場合がありますので、静かに聞きましょう。

※ この手帳に記載されている以外にも、様々な場面で地震は起こり得ます。まず自分の命を守る事を第一に、危険への対処方法を考えて避難することが大切です。



4 台風（風水害）の時はどうする？

ねらい

- ☆ 大雨や台風によってどんな危険が発生するかを知る。
- ☆ 風水害が発生するおそれがあるとき、どんな準備が必要かを知る。
- ☆ 警戒レベルを知っておく。

解説

◎ 台風がくる前に

- 家の周囲を点検し、側溝等は水が流れていくよう掃除したり、飛ばされそうなものは屋内に片づけておきましょう。
- 食糧や服、写真等の大切なものは、万が一を考えて家の中の高いところに置いておきましょう。

◎ 情報収集

- インターネット・SNSの注意点

インターネット、特にSNSの情報はリアルタイムで更新されることも多く、有益な情報が多くありますが、デマに注意しながら活用することが大切です。

スマートフォンを使っている場合は、様々な気象アプリを使って、情報を入手することもできます。

尾張旭市では、令和3年4月から『尾張旭市防災アプリ』をリリースしています。防災気象情報や避難情報、避難所開設情報等の他、ハザードマップを見ることもできますので、ぜひ活用してください。

- 警戒レベル

避難情報には、警戒レベルが付されます。警戒レベルを覚えておくことは、避難の準備や避難行動をする上で大変重要です。

警戒レベルは、尾張旭市防災ガイドブックにも掲載しています。

現在の運用では、警戒レベル4までに、危険な場所にいる人は全員避難をする必要があります。

どのタイミングで避難するべきかを家族で確認しておくことが大切です。

3. 台風（風水害）の時はどうする？

- ◆台風がくる前に・・・家の周りは大丈夫？



- ・ 飛ばされやすいものは、家の中にしまおう
- ・ しん水の恐れがある場所では、食料品などを高い場所に移動させよう！

- ① 台風（風水害）から身を守ろう！

- ◆テレビやインターネットの情報をチェックしよう！

正確な情報を入手することは、災害から身を守ることに繋がります
デマに注意しながら、情報を入手しましょう



主な防災気象情報

注意報	災害の起こるおそれがある場合
警報	重大な災害の起こるおそれがある場合
特別警報	数十年に1度の大災害が起こると予想される場合
土砂災害警戒情報	土砂災害の起こるおそれがある場合

◆避難のタイミング

風水害の雨や風は、あつという間に強くなります。
情報に気をつけて、危険な場所にいるときは、早めの避難を心がけましょう。
避難のタイミングは、国や市が発表する警戒レベルを確認しましょう。

風水害の警戒レベル

レベル1	避難する心がまえをしておきましょう
レベル2	ハザードマップなどを確認し、避難の方法を考えておきましょう
レベル3	高齢者など、避難に時間がかかる人は避難しましょう
レベル4	危険な場所にいる人は避難！すぐに安全な場所に避難しましょう
レベル5	すでに災害が発生しています！命を守るための行動をとりましょう

◎ 避難時の注意

■ 増水した河川に近づくのは危険です。また、川は急激に増水する場合があります、普段の川のように見えても、近づくことは危険です。

■ 冠水した道では、側溝に足を取られたり、開いたマンホールに気が付かず、落下するおそれがあります。

■ 土砂崩れに巻き込まれる危険があるため、崖には近づかないようにしましょう。

◎ 避難の際の服装

風水害時の避難の際は、履きなれた歩きやすい靴（スニーカー等）を履きましょう。

長靴は中に水が入り、転倒するおそれがあります。

また、スリッパ等の脱げやすい履物も、避難の妨げになります。

② ひ難する時に気をつけることは？

《増水した河川には近づかない》



あふれた水に流されてしまうおそれがあります。

《用水路やマンホールに注意》



用水路やマンホールの位置がわからず、落ちてしまうおそれがあります。

《がけのそばに注意》



落石や倒木が起きたり、がけくずれが起こるおそれがあります。

◆ 普段から、家の近所や通学路の危険な場所をチェックしておきましょう。

◆ 歩きなれた道でも、大雨が降っていると危険なことがあります。遠回りでも安全な道を使いましょう。

《いつでもひ難できるように準備しましょう》

- ・ 運動靴でひ難する。
※長靴は中に水が入ると歩きにくくなります
- ・ 非常持ち出し品は背負うなどして、両手は自由に。
- ・ となり近所で声をかけあい、歩いてひ難する。



考えてみよう！

家の近所や通学路で危険な場所はあるかな？	
家の近所	
通学路	



8

体験談（マンホールの危険性）平成 22 年梅雨前線による大雨災害（平成 22 年 7 月）

マンホールに片足バコーン～泥水で蓋が浮いているのに気づかず～

（山陽小野田市 30 代 女性 看護師）

庭先に犬がいたのでつい声をかけると、飼い主さんが「実はこの犬、川が氾濫した時に流されたんだけど、泳いで帰ってきたんですよ」って。「偉いね」なんて話をしていると、その奥さんが出てきて、「ちょうど良かった。看護婦さんなら診てもらえる」と言いながら足を診せたのです。

足の付け根まで一本丸ごと、すごい内出血でした。「どうしたんですか？」って言ったら、「マンホールの蓋が浮いていたのに、泥水で見えなくて、落ちちゃった」と言うのです。「バコーンッ」と片足落ちて、『マンホールだ！』と思って自力ではい上がった」とも。表面上傷は無いけれど、ものすごく赤く腫れていて、ちょっと熱があるような感じだったので、足を冷やしてあげてから、病院に行くよう勧めました。

お母さんって、被災して片づけをしながらも、ちゃんと家族に 3 食食べさせなきゃいけないっていうことがあるから、気にはなるんだけど自分のことはさて置いて、という感じになっちゃうんですね。

痛かったと思いますよ、本当は。けど、耐えとったんよね。別れ際に、「ちょっと安心した」と、奥さん。そのひと言が心に残りました。

（内閣府防災担当「一日前プロジェクト」より）

4 その他の災害のことを考えよう！

ねらい

☆ 雷の危険性と対処法を知る。

解説

◎ 雷への対処法

落雷のおそれがあるときは、すぐに建物の中に避難します。

家の軒先や、樹木の下に雨宿りすることは、樹木等に落ちた雷の電気が飛んでくるおそれがあるため、大変危険です。

また、近くに建物がない場合は『雷しやがみ』の姿勢を取ります。

文中の①～④の中でも、特に③、④が重要なポイントであり、両足のかかとを合わせることで、足から侵入した電流を、片足から反対側の片足へ流し返し、上半身まで電流を流さないようにします。また、つま先で立って、地面との接点を最小限にすることで、電流が侵入する

のを最小限にします。人が多いときは、各自できるだけ離れて雷しやがみを行います。なお、姿勢を低くすると言っても、地面に腹ばいになるのは、地面と接する面積が大きくなるため、地面に雷が落ちたとき、その電流で感電するおそれがあります。

また、雷雨のときは傘をさすと、雷を自身に引き寄せてしまうおそれがあるため大変危険です。また、ゴム製品を身に着けても、雷の強い電気を防ぐことはできません。金属類（メガネ、時計、指輪等）を外しても、ほとんど効果はありません。

4. その他の災害のことを考えよう！

《かみなりが発生したら》



- 音が聞こえてきたらすぐに避難しよう！
→ かみなりは遠くで鳴っていても、すぐに近づいてきます。
- 建物や車の中に避難しよう！
→ 周りより高い場所や物に落ちやすいので、木の下に入るのは危険です。
- 近くに避難する場所がない時は、できるだけ姿勢を低く保とう！
→ 『かみなりしやがみ』を覚えましょう。

《かみなりしやがみ》

- ①しやがんで頭を低くする。（姿勢をなるべく低く保つ）
- ②両手でしっかり耳をふさぐ。（こまくを守る）
- ③かかとを合わせる。（地面からの電流を上半身まで流さない）
- ④つま先で立つ。（地面との接点を最小限にする）

5. ひ難所ってどんなところ？

- ① ひ難所とはどんなところでしょうか？下の絵を見て考えてみましょう！



ひ難所では多くの人が集まって生活します。自分勝手な行動をとらず、ルールを守って、自分にできることをしましょう。

9

5 ひ難所ってどんなところ？

ねらい

☆ 避難所の役割を知る。

☆ 避難所と避難場所の違いを知る。

解説

◎チェックポイント（避難所の特徴）

- ① 炊き出し

- ② 情報の掲示板
- ③ 避難者の受付
- ④ 避難者の診療
- ⑤ 配給品の受け渡し
- ⑥ 家から持ち出した非常持ち出し品の確認
- ⑦ 要配慮者の移動の介助
- ⑧ ケガの治療
- ⑨ 乳幼児の授乳

◎ 避難所

災害により、自宅に住めなくなった人が集まって一定期間生活するところが避難所（指定避難所）です。

尾張旭市では災害の種類に関わらず、市内12の小中学校の体育館が避難所となっています。

◎ 避難所でできること

避難所の運営は、避難者が中心となって行います。

避難所の仕事は多岐に渡りますが、大人も子どもも協力してできることを積極的にやるのが大切です。

6 災害用伝言ダイヤルの使い方

ねらい

☆ 災害用伝言ダイヤルの使い方を学ぶ

解説

災害用伝言ダイヤルは、家族同士で安否確認する際に役立ちます。

災害時は、電話やメールがつながりにくくなる場合がありますので、お子さんと一緒に使い方を覚えておくことが大切です。

災害用伝言ダイヤルは、決まった期間に体験利用することもできます。

詳細は、尾張旭市防災ガイドブック裏表紙を確認してください。

② ひ難所であなたができることは？

ひ難所で、あなたができていることにチェックをつけてみよう！

そうじ <input type="checkbox"/>	たき出し <input type="checkbox"/>	けがの手当て <input type="checkbox"/>
幼児の世話 <input type="checkbox"/>	物資の配布 <input type="checkbox"/>	洗たく <input type="checkbox"/>
ごみ拾い <input type="checkbox"/>	みんなの看病 <input type="checkbox"/>	荷物運び <input type="checkbox"/>

ひ難所で、あなたが他にできることを考えてみよう！

ひ難所では、みんなの協力が必要です。自分にできることを積極的に見つけましょう！

6. 災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？
 災害の発生によって、通信がつながりにくい状況になった場合に提供が開始される「声の伝言板」です。
 ※1伝言あたり30秒以内
 ※音声によるアナウンスが流れるので、それにしたがって操作してください。

171にダイヤル
 ガイダンスにしたがって利用する

1 自分の伝言を登録する
 2 家族の伝言を確認する

自宅の電話番号を市外局番から入力

伝言を録音 (30秒以内) 伝言を聞く

保護者の方へ
 携帯電話からでも利用できますが、詳しくは加入している通信事業者に問い合わせが必要です。

7. 応急手当
 けがをした時にあわてないように、応急手当を覚えましょう！

骨折	出血	やけど
身近にある、固いものをそえて固定する。	清潔なガーゼなどで、傷をおさえる。血液にふれない。	30分以上、水で冷やした後、ガーゼなどで傷をおおう。

応急手当をしたら、必ず病院に行きましょう

8. まとめ
 災害時にはもちろん、普段の生活から、自分の命は自分で守ろうという気持ち、自分たちの街は自分たちで守ろうという気持ちが必要です。
 こども防災手帳を活用して、日ごろから防災について考えるようにしましょう！！

7 応急手当

ねらい

☆ 応急手当の簡単な方法を学ぶ

解説

応急手当をした後そのままにせず、必ず病院に行く必要があることを、お子さんが理解することが大切です。

8 まとめ

ねらい

☆ 本手帳で学んだことの総括

解説

自分の命は自分で守る『自助』と自分たちの街は自分たちで守る『共助』の大切さを認識し、災害にどういう対処が必要かをお子さんが知っておくことが重要です。

小学校高学年になると、保護者の方や先生のいない場で活動する機会も出てきますので、そういうときに災害が起こったらどうするかをある程度決めておき、判断できるようにしましょう。

参考資料

■ 尾張旭市防災ガイドブック

尾張旭市のハザードマップ及び防災啓発事項を掲載したガイドブックです。

URL : <https://www.city.owariasahi.lg.jp/kurasi/bousai/map.html>

■ 尾張旭市防災アプリ

尾張旭市の公式アプリです。防災情報を入手できるほか、ハザードマップを確認できます。

URL : <https://www.city.owariasahi.lg.jp/saigai/apuri.html>

■ 一日前プロジェクト（内閣府防災）

日本全国で起こった災害にまつわる体験談が掲載されています。

URL : <http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>

☆スマートフォンはこちらからアクセス

尾張旭市防災ガイドブック	尾張旭市防災アプリ	一日前プロジェクト
		